

# 神奈川県微生物検査情報

<http://www.eiken.pref.kanagawa.jp/>

神奈川県衛生研究所

## 第 164 号

(平成 17 年年報)

平成 18 年 9 月 5 日発行

### ○ ヒト由来病原微生物検出情報

#### 1 細菌関連情報

平成 17 年（2005 年）のヒト由来の病原菌検出総数は、215 件であった。これらは食中毒等検査、感染症発生動向調査等の医療機関からの検体検査、感染症発生に伴う行政検査および依頼検査から検出されたものである。2005 年は海外渡航者からの病原菌の検出はなかった。

表1 月別及び暦年病原菌検出状況(ヒト由来)

菌種・群・型	平成17年												計 総数	平成16年		平成15年		平成14年	
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		総数	内海外 渡航者	総数	内海外 渡航者	総数	内海外 渡航者
腸管出血性大腸菌					2	1	6	4	5				18	26		5	17		
毒素原性大腸菌									3				3						
病原血清型大腸菌			2		13		2	2	1		1		21	4		18	20		
パラチフス A菌														1	1				
サルモネラ 04群														4		1	1		
サルモネラ 07群									5				5			1			
サルモネラ 08群														1		2	1		
サルモネラ 09群					1			1		1	2		5	2		2	4		
サルモネラ 09群, 46群																	1		
サルモネラ 013群																2	1		
01&0139以外のコレラ菌														1	1				
腸炎ビブリオ								24	7				31	26	1	10	3		
エロモナス キャビエ									1				1						
カンピロバクター ジェジュニー					2	8	15	8	5	5	6		49	20		4	2		
カンピロバクター コリー														4					
黄色ブドウ球菌									1		3		4	5			13		
ウエルシュ菌			24	28		8							60	23		1	6		
セレウス菌					1								1						
赤痢菌 D群														1					
A群溶血レンサ球菌		1		2	4						1	1	9	8		4	14		
髄膜炎菌																1	1		
淋菌																6	39		
マイコプラズマ ニューモニエ							3			4	1		8	4		47			
合計		1	26	30	23	17	26	40	27	10	14	1	215	130	3	104	123		

【注】 急性胃腸炎の原因菌と考えられるもののみ記載

検出件数

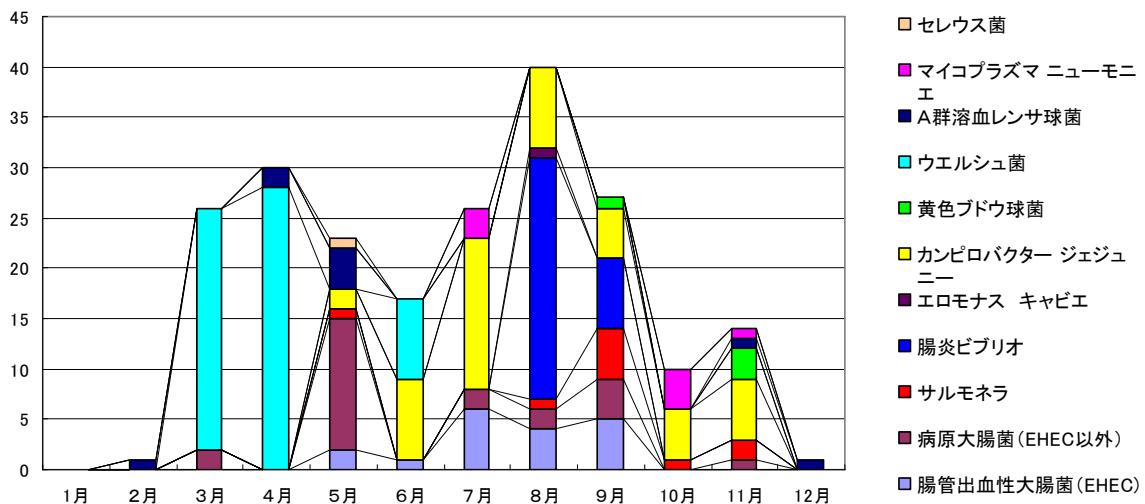


図1 平成17年月別病原菌検出状況(ヒト由来)

- 月別病原菌検出状況（図1）では、ウエルシュ菌の検出が3,4,6月、腸炎ビブリオは8,9月に集中して検出されている。また、カンピロバクター ジェジュニーは5月から11月の間に検出されている。これらの菌はいずれも食品媒介が疑われる胃腸炎患者からの検出であった。
- 暦年の検出状況（図2）では、カンピロバクターの検出が平成14年から17年に増加しているが、カンピロバクターによる食中毒の全国発生率の増加と同様の結果であった。ウエルシュ菌による食中毒の全国発生率は平成14年から17年は横ばいであったが、神奈川県では平成16年、17年と増加傾向であった。

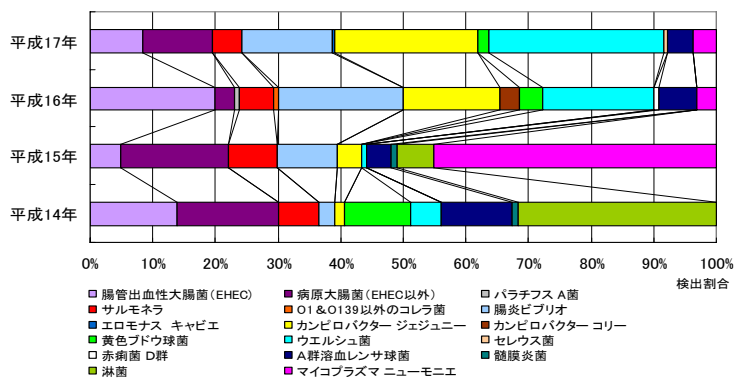


図2 暦年の病原菌検出状況の変化

表2 ヒト由来検査件数及び病原菌検出状況(検査材料取扱い機関別) (平成17年)

	地域調査部											微生物部	合計
	平塚保健所	鎌倉保健所	藤沢保健所	小田原保健所	茅ヶ崎保健所	三崎保健所	秦野保健所	厚木保健所	大和保健所	足柄上保健所	津久井保健所		
取り扱い検査件数 (海外渡航者内数)	5202	3757 (3)	5603	14118 (2)	3079 (11)	1227	3445	5824 (1)	1402	2960	1523	272	48412 (17)
腸管出血性大腸菌	2	1	3	4					2	4	2		18
毒素原性大腸菌						3							3
病原大腸菌				15									6
サルモネラ 07群		1		1	2		1						5
サルモネラ 09群		1	2		2								5
腸炎ビブリオ				6	24			1					31
エロモナス キャピエ												1	1
カンピロバクター ジェジュニー	1	1	15	8	2			21					49
黄色ブドウ球菌				4									4
ウエルシュ菌					52			8					60
セレウス菌				1									1
A群溶血レンサ球菌												9	9
マイコプラズマ ニューモニエ												8	8
合計	3	4	20	39	82	3	1	30	2	4	2	25	215

同時検出を含む

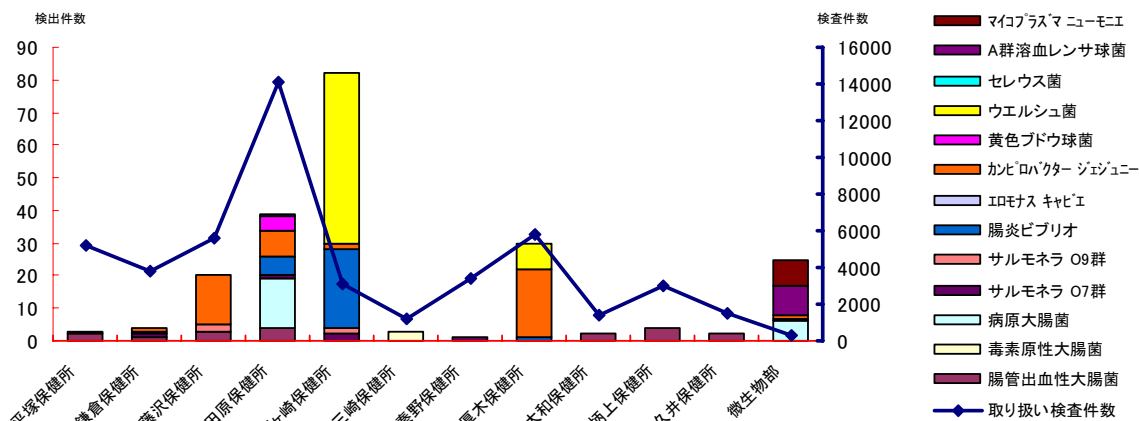


図3 平成17年検査件数及び病原菌検出状況(検査材料取扱い機関別)

## 2 ウイルス関連情報

- 平成 17 年（2005 年）のウイルス検出総数は、636 件であった。これらは、食中毒等検査、感染症発生动向調査等の医療機関からの検体検査から検出されたものである。
- 平成 17 年は、神奈川県において 5 月から 8 月のヘルパンギーナ及び流行性耳下腺炎の流行、手足口病の小流行があり、また、ロタおよびサポウイルスによる食中毒、感染性胃腸炎の集団発生があったため、コクサッキーウイルス、ムンプスウイルス、ロタウイルス、サポウイルスの検出数が増え、前年度の検出総数（551 件）に比べ、検出総数が増加した。なお、サポウイルスは県域では初めて検出されたウイルスであった。
- 暦年の検出状況（表 3）ではウイルス検出総数はインフルエンザウイルス及びノロウイルスの検出の割合が高い。特にノロウイルスは平成 16 年末から 17 年の初めまでの間全国的にノロウイルスによる感染性胃腸炎の集団発生が多発し、神奈川県でも同様に多発したため検出数が増加した。

表 3 月別及び暦年ウイルス検出状況

	平成17年												計	平成16年	平成15年	平成14年
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月				
インフルエンザ AH1												6	6			45
インフルエンザ AH3	14	47	13									3	77	159	92	89
インフルエンザ B	21	75	9										105	3	27	7
パラインフルエンザ 3														1		
RS											1		1	3		
ポリオ 3					1								1			1
コクサッキー A2			1										1	3		
コクサッキー A4							1						1	5	5	4
コクサッキー A5								1					1			
コクサッキー A6					2	9	12						23	3	1	6
コクサッキー A8																1
コクサッキー A9										1			1	1		
コクサッキー A10						1				1		1	3		8	
コクサッキー A12							1						1	1	9	
コクサッキー A14					1		1						2			
コクサッキー A16		1			4	4	2	4			1	1	17	9		33
コクサッキー B1														2	4	
コクサッキー B2															1	4
コクサッキー B3							1						1			
コクサッキー B4														1		1
コクサッキー B5														2		
エコー 3						2	1						3			
エコー 6						2							2	1	1	
エコー 11																2
エコー 13																25
エコー 14															1	
エコー 18														7		
エコー 30																2
エンテロ 71					1		5	5			1	1	13		6	3
パレコー										1			1			
ライノ									1				1			
ムンプス					5	10	2			2	1	1	21	1	2	1
アデノ 1															1	1
アデノ 2		1			1	1	1						4	1		
アデノ 3	3					1		1		1	1	1	8	9	1	3
アデノ 4			1										1		3	
アデノ 5					1								1			3
アデノ 6																1
アデノ 40/41										2			2	1		
アデノ（型未決定）															1	
単純ヘルペス1	1						1			2			4			4
ロ タ		1	12	1	16							1	31	3	10	1
小 型 球 形															18	17
ノ ロ	101	21	23	2	16	7				1	21	48	240	332	118	126
サ ポ					50								50			
デング																1
未同定														3	1	1
オリエンチア ツツガムシ										1	12	13	13			
合 計	140	146	59	3	93	39	28	10	5	10	40	63	636	551	310	382

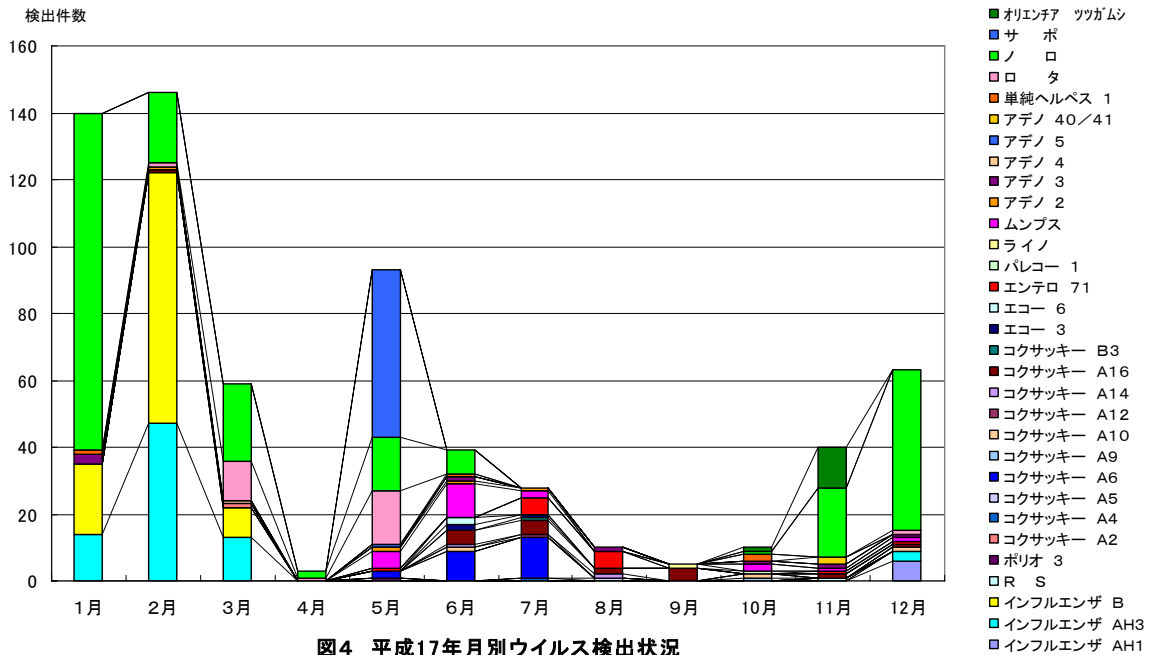
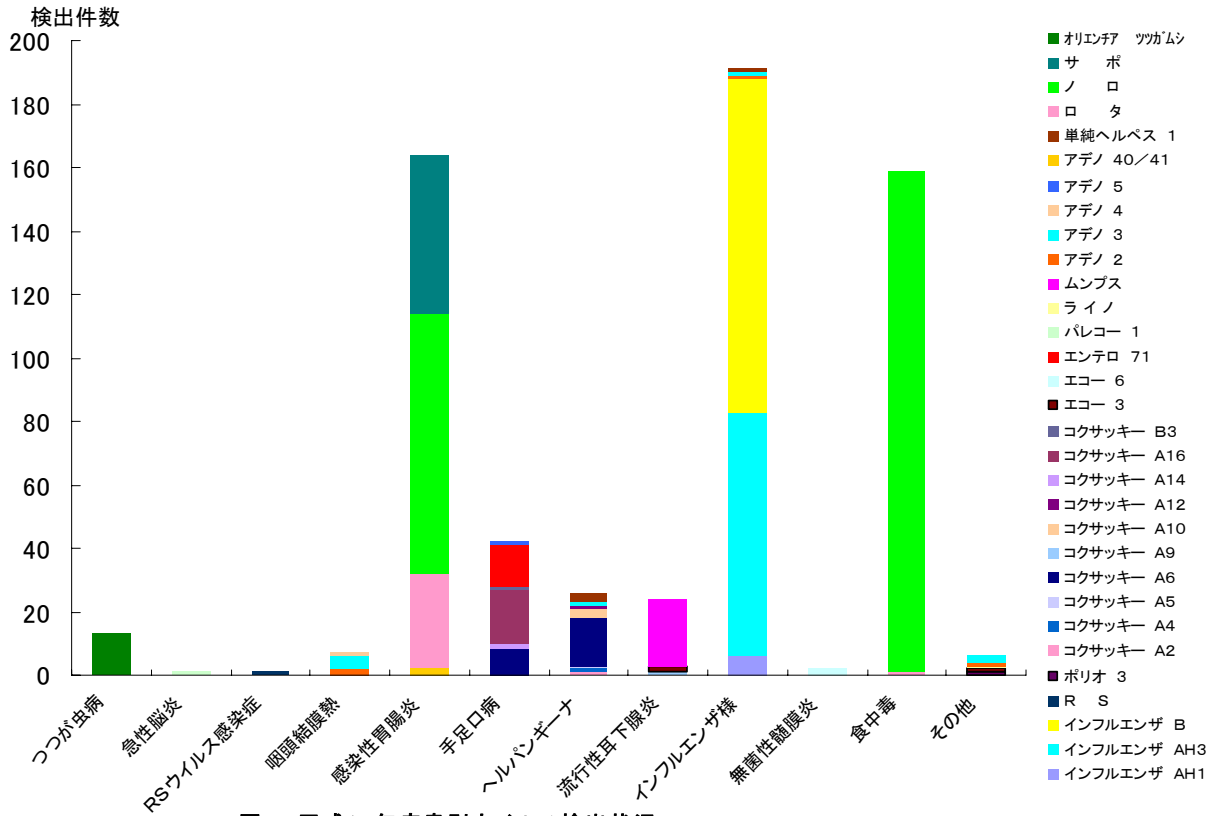


図4 平成17年月別ウイルス検出状況

表4 疾患別ウイルス検出状況

(平成17年)

疾患名 検出ウイルス	つ つ が 虫 病	急 性 脳 炎	R S ウ イ ル ス 感 染	咽 頭 結 膜 熱	感 染 性 胃 腸 炎	手 足 口 病	ヘル パン ギ ー ナ	流 行 性 耳 下 腺 炎	イン フル エン ザ 様	無 菌 性 髄 膜 炎	食 中 毒	そ の 他	合 計
インフルエンザ AH1									6				6
インフルエンザ AH3									77				77
インフルエンザ B									105				105
R S			1										1
ポリオ 3												1	1
コクサッキー A2							1						1
コクサッキー A4							1						1
コクサッキー A5							1						1
コクサッキー A6						8	15						23
コクサッキー A9								1					1
コクサッキー A10							3						3
コクサッキー A12							1						1
コクサッキー A14						2							2
コクサッキー A16						17							17
コクサッキー B3						1							1
エコー 3								2				1	3
エコー 6										2			2
エンテロ 71						13							13
パレコー 1		1											1
ライノ												1	1
ムンプス								21					21
アデノ 2				2				1				1	4
アデノ 3				4			1	1				2	8
アデノ 4				1									1
アデノ 5						1							1
アデノ 40/41					2								2
単純ヘルペス 1							3	1					4
ロ タ					30						1		31
ノ ロ					82						158		240
サ ポ					50								50
オリエチア ツツガムシ	13												13
合 計	13	1	1	7	164	42	26	24	191	2	159	6	636



### 3 結核検査情報

平成17年11月から結核QFT検査を導入し、平成17年11月～12月までに藤沢及び足柄上保健所から、結核接触者検診に基づく4事例80件の結核QFT検査依頼があり、足柄上保健所管内で陽性、判定保留例が各1件、藤沢保健所管内で判定保留例が1件であった。

\*判定保留とは、測定値が0.1～<0.35IU/ml (>0.35IU/mlが陽性)の場合を言い、QFT試薬説明書によると、感染の度合いを考慮し、総合的に判定するとなっています。結核研究所では、疑陽性と言う表現を使用していますが、当所では、試薬販売メーカーの意見および使用説明書の記載に従い、判定保留の表現を使用することにしました。

## ○ 食品由来微生物検出情報

平成17年(2005年)の食品由来の病原菌検出総数は、28件であった。これらは食中毒等検査、食品収去検査から検出されたものである。検出菌の93%が食中毒等の原因調査から検出されたものであった。

表6 食品由来検査件数および病原菌検出状況(検査材料取り扱い機関別) (平成17年)

	地域調査部											微生物部	計
	平塚保健所	鎌倉保健所	藤沢保健所	小田原保健所	茅ヶ崎保健所	三崎保健所	秦野保健所	厚木保健所	大和保健所	足柄上保健所	津久井保健所		
取り扱い検査件数	141	200	194	436	218	66	135	254	159	210	67	259	2339
食中毒等	腸炎ビブリオ				2								2
	黄色ブドウ球菌				2								2
	ウエルシュ菌	9			1								10
	セレウス菌		1		4								5
	A群溶血レンサ球菌											7	7
	サルモネラ O7群	2											2
合計	11	1		6	3							7	28

## ○ 環境由来微生物検出情報

平成17年(2005年)の環境由来の病原菌検出総数は、190件であった。これらは、河川水検査、風呂浴槽水、温泉水等の検査および食中毒等に関わる検査などから検出されたものである。

表7 環境由来検査件数および病原菌検出状況(検査材料取り扱い機関別) (平成17年)

	地域調査部											微生物部	合計	
	平塚保健所	鎌倉保健所	藤沢保健所	小田原保健所	茅ヶ崎保健所	三崎保健所	秦野保健所	厚木保健所	大和保健所	足柄上保健所	津久井保健所			
取り扱い検査件数	31	99	107	432	80	27	95	95	30	31	1	369	1397	
河川水	サルモネラ O4群											18	18	
	サルモネラ O7群											17	17	
	サルモネラ O8群											6	6	
	サルモネラ O9群											6	6	
	サルモネラ O3,10群											1	1	
	サルモネラ 型別不能											7	7	
	サルモネラ 群不明											1	1	
	O1&O139以外のコレラ菌											52	52	
浴槽水・温泉水等	取り扱い検査件数	31	99	107	432	80	27	95	95	30	31	1	31	1059
	レジオネラ ニューモフィラ 1群				4			4			1			9
	レジオネラ ニューモフィラ 2群				2									2
	レジオネラ ニューモフィラ 3群				2								2	4
	レジオネラ ニューモフィラ 4群				3			2					3	8
	レジオネラ ニューモフィラ 5群				8	4		5					1	18
	レジオネラ ニューモフィラ 6群				6			3	1				5	15
	レジオネラ ニューモフィラ 7群				1								1	2
	レジオネラ ニューモフィラ 9群				5									5
	レジオネラ ニューモフィラ 12群				1									1
	レジオネラ ニューモフィラ 15群				1									1
	レジオネラ ニューモフィラ 型別不能				1			3						4
	レジオネラ ボゼマニー												2	2
	レジオネラ ミクダディー												1	1
レジオネラ デュモフィー												1	1	
その他	レジオネラ ニューモフィラ 1群	1												1
	黄色ブドウ球菌				3									3
	セレウス菌				5									5
合計	4			42	4		17	1			1	124	190	

同時検出を含む

微生物部は主に温泉水、冷却塔水の検査を実施しており、地域調査部は風呂浴槽水の検査を実施している。血清群別レジオネラニューモフィラの検出頻度は患者及び人工環境水の種類により明瞭な差があり、風呂浴槽水からは5群の検出が多く、冷却塔水からは1群の検出が多く、また、温泉水からは4群、5群の検出が多い。検査した風呂浴槽水からも同様に5群の検出が一番多い。

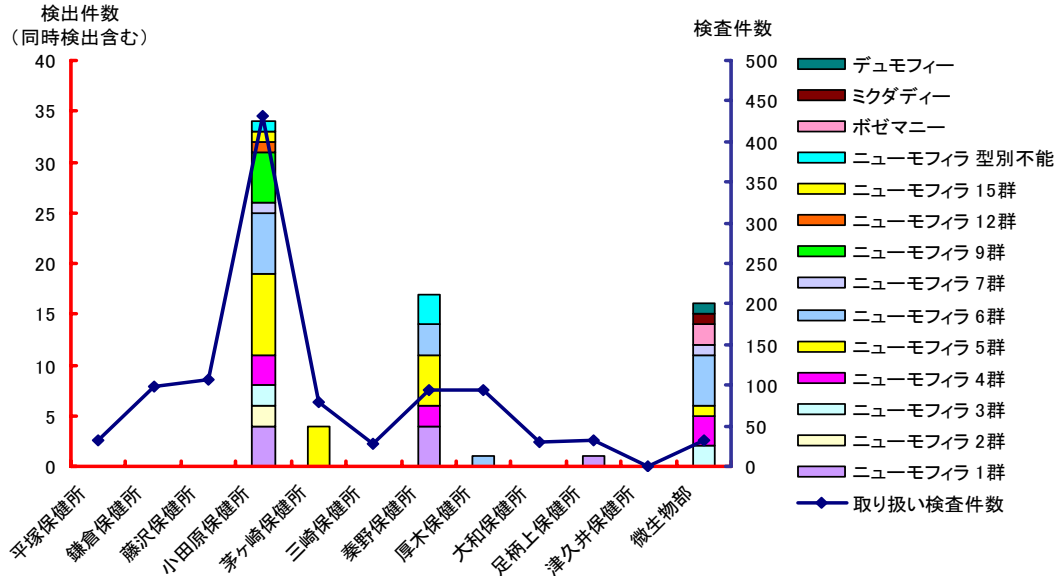


図6 平成17年浴槽水、温泉水等の検査件数及びレジオネラ属菌検出状況

河川水は、10カ所の定点から採水し検査している。O1&O139以外のコレラ菌（いわゆるNAGビブリオ）の検出が一番多く、52件であった。その他サルモネラが検出されている。

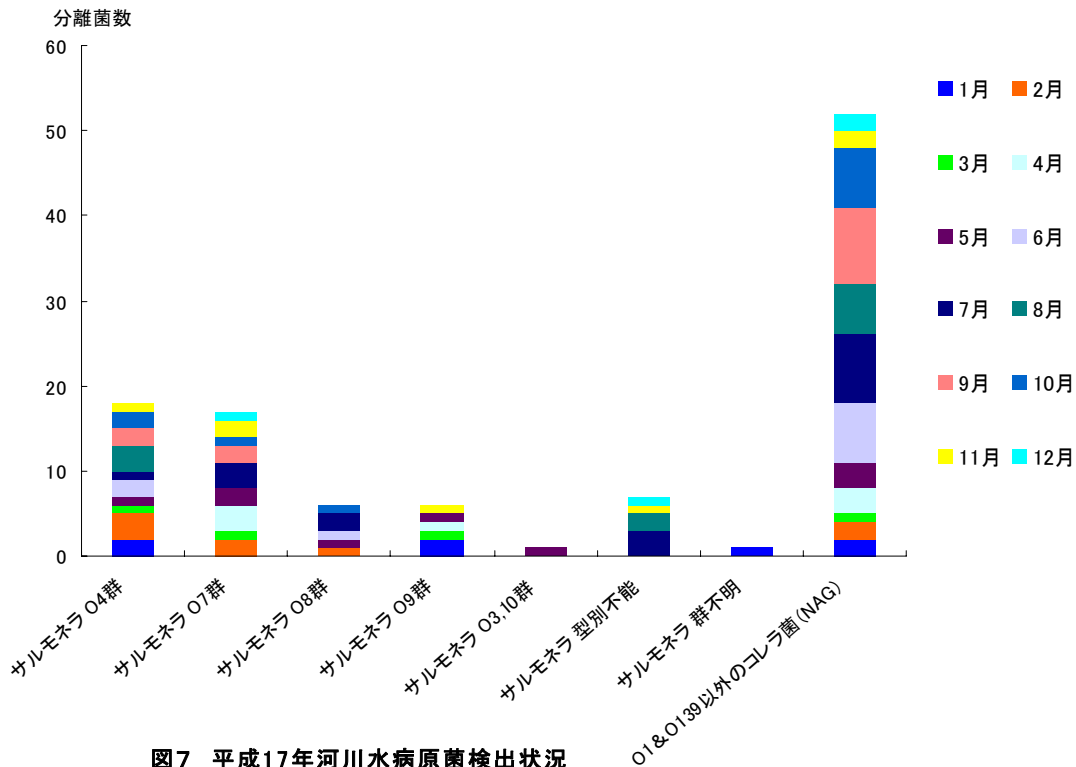


図7 平成17年河川水病原菌検出状況